

## 助成事業完了報告書（イベント・事業レポート）

日本財団 会長 笹川陽平殿

報告日付：平成29年7月31日

### ■事業内容

#### 1. 「瀬戸内・海と日本シンポジウム」の開催

名称：「夏休み親子教室 鞆の浦で海を楽しもう！」

日時：平成29年 7月30日（日）

場所：鞆の浦および周辺地区（福山市鞆公民館大ホール、福山市営渡船、仙酔島）

対象：広島県+周辺地域在住親子 ※台風接近予報及び酷暑により定員 200名⇒34名実施

#### 2. 「瀬戸内アートクルーズ（尾道発着コース）」の実施

名称：「瀬戸内海ミニクルーズモニターツアー」（尾道～鞆の浦～尾道）

日時：平成29年 7月30日（日）

場所：尾道港発着、鞆の浦および周辺地区

（鞆港、対潮楼、福山市鞆公民館大ホール、福山市営渡船、仙酔島、鷗風亭）

対象：広島県+周辺地域在住親子 ※台風接近予報及び酷暑により定員 80名⇒15名実施

### 【テーマ】

海に関する学びをテーマとして、海とのつながりや海の新たな側面への気づきを提供する。

- ・次世代を担う子供たちの海に関する好奇心を掘り起こす。
- ・この事業を通じて今までにない視点で海に触れたり感じられる経験を提供する。
- ・海の大切さや重要性を学び、アピールできる場を提供する。
- ・日本の祝日「海の日」月間の周知・啓発につなげる。

### ■事業評価

#### ●集客と効果目標の達成状況

##### 1. 「瀬戸内・海と日本シンポジウム」

7月23日頃より太平洋上で複数の台風が次々に発生し、日本に上陸する日の予報すら困難なほど迷走を続けたことにより、一時は100名を超えていた参加予定者から相次いで参加見合わせの連絡が入り、実施2日前には50名を下回る状況となった。

日程の順延も検討したが、集客目的で制作したパンフレット、出稿した広告をはじめとして、運営を委託した企画会社による各種日程入りの制作物・看板や、当日の司会を務める広島県観光アシスタントの他事業との日程調整を含めた手配なども完了しており、費用面でも実質的に順延は困難であったことから、予定の日時で実施した。

さらに悪いことに台風は日本列島になかなか上陸せず、西日本は連日猛暑が続き、熱中

症を心配する参加予定者から取消の連絡が入り、当日無連絡不参加者が出たこともあって最終的には非常に残念ながら34名での実施となった。

200名募集にて、申込み34名（達成率 ※取消後17%）

事業広報 中国新聞購読者 300,000部×4回の広告掲載

チラシ 5,000枚配布（うち広島市内 1,400部）

## 2. 「瀬戸内アートクルーズ（尾道発着コース）」の実施

7月23日頃より太平洋上で複数の台風が次々に発生し、日本に上陸する日の予報すら困難なほど迷走を続けたことにより、予約数が伸び悩む状況となった。

日程の順延も検討したが、集客目的で制作したパンフレット、出稿した広告をはじめとして、チャータークルーズ船の手配なども完了しており、費用面でも実質的に順延は困難であったことから、予定の日時で実施した。

80名募集にて、参加者15名（達成率19%）

事業広報 中国新聞購読者 300,000部×5回の広告掲載

チラシ 5,000枚配布（うち広島市内 1,400部）

### ●事業実施によって得られた成果

1. 2. 共に、参加人数としては多くなかったが、事業実施前と実施後では海に対する理解や親近感に変化が見られ、今後も関心を持って行きたい意向が見受けられた。

特に子供たちは、実際に海で貝殻などを拾い集める体験や、船を利用した体験の機会が減っている昨今、非常に元気に海と親しみ、熱中症を懸念して事務局が準備した大量のミネラルウォーター入りペットボトルや氷などをよそに、海から全身にパワーをもらって元気一杯で会場に戻って来ており、むしろ保護者達の方がバテ気味であったことが印象に残った。

瀬戸内アートクルーズ（尾道発着コース）ツアーでは、夕食を海が眼前に迫る鷗風亭のテラス席で海鮮バーベキューとしたことで、海への感謝や、普段じっくり見る事の無い海を背景とした夕焼けの美しさ等を再認識出来た。

### ●成功したこととその要因

何よりも参加者の親子たちの海での笑顔、海からの贈り物での「ブローチ」制作により、普段何気なく接している海をより身近に感じ、一層の親しみを持ってもらえたと確信した。

更に、シンポジウムの「海と街のくらしを学ぶお話」では、これも普段気づいていない海の恵みや歴史を学ぶ事で、海と自分たちの生活とのかかわりを再認識してもらえたと考えている。

実務的には、県内で船を活用したツアー造成に定評のある旅行会社（尾道観光協会）に企画・実施を依頼したことで、結果としての参加人員は多くなかったものの、事業の意義

や関係者への意識醸成を含めた広報は一定程度出来たと考える。

シンポジウム会場の手配も、地元の福山観光コンベンション協会に協力頂き、地元である鞆の浦の皆さんに歓迎頂けた。

#### ●失敗したこととその要因

実施時期については、「海の日」月間を訴求する観点や、小学生が参加しやすく保護者の仕事関係にも配慮して7月下旬に実施日を設定したが、運悪く台風や酷暑などの気候条件に大きく影響され、結果として参加者数が多くなかったことは非常に残念と言わざるを得ない。

#### ■事業レポート

##### 1. 「瀬戸内・海と日本シンポジウム」

鞆の浦の公民館大ホールに集合。

瀬戸内海の日アート・体験プログラム実行委員会より開会の挨拶。

日本財団の助成事業の趣旨や事業の内容について説明。

まず、「海からの贈り物で親子工作教室」全体の流れを、講師である鞆の津ミュージアム津口学芸員より説明した後、2班に分かれて潮待ちの港を歩き、仙酔島へ出発。

市営渡船「平成いろは丸」にて島へ渡ったのち、海岸で海からの「贈り物」（貝がら、削れて丸くなったガラスのかけら等）を思い思いに収集し、海に親しむ。

再び船で鞆の浦の会場に戻り、学芸員の指導でブローチ作り。参加者それぞれオリジナルのブローチが出来上がる。

後半は講演会。「海と街のくらしを学ぶお話」と題し、NPO 法人空き家再生プロジェクトの豊田雅子代表理事を迎えて、わたしたちの街と海とのかかわりについての話を聴いた。

##### 2. 「瀬戸内アートクルーズ（尾道発着コース）」

尾道港に集合し、チャータークルーズ船にて一路鞆の浦へ。

鞆の浦が潮待ちの港として栄えた街であることや、今なお古き良き時代の景観が色濃く残っていることなどを説明しながら、高台にある「対潮楼」より海を望む。

シンポジウム参加のあと、海沿いの道を歩いて夕食会場へ。海にちなんだ食材のバーベキューに舌鼓を打ち、夕焼けの海空を眺めながら港へ。尾道港に到着後、無事解散となった。

以 上